

平成27年度国立大雪青少年交流の家
第1回施設業務運営委員会広報部会議事要旨

日時：平成27年5月27日（水）13：30～
場所：北海道教育大学旭川校

運営委員出席者：小林委員，前田委員（部会長代理），尾崎委員，松倉委員，村上委員，笠井委員長（オブザーバー）

計 6名

欠席者：山中委員

計 1名

国立大雪青少年交流の家出席者：阿部所長，穴澤次長，安藤事業推進室主任，久保企画指導専門職，石川事業推進室員

計 5名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●事務局

会議時間，資料確認，欠席委員の報告。また，部会長の欠席により，部会長代理による議事進行を確認。

●部会長代理による議事進行

○部会長

まず，議題に入る前に当部会の役割と昨年度の報告について最初に事務局より報告いただきたい。

●事務局

当部会の役割については，「支え合いと活気のある」施設を作るために，「協働の場」の一つとして，国立大雪青少年交流の家の広報について幅広い意見を収集，反映することにより，成果をあげることとなる。

昨年度2月に開催された，広報部会でも話したとおりに，本年度より「新しい公共」型施設運営の本格実施が開始されている。これからは，特に成果を上げることが求められることとなる。

（資料2）昨年度の利用者数と稼働率の報告

昨年度総利用者数は，雪不足による予約キャンセルなどもあり，107,995人となり，目標の114,000人を達成できなかった。宿泊室の稼働率も昨年同様の54.8%となり，今年度は特に宿泊者数及び宿泊室稼働率を上げていく必要がある。なお，宿泊利用者を増やすための方策については後ほど協議したいと思う。

○部会長

今年度は「新しい公共」型運営の本格実施の初年度であり，具体的な成果を求められていることが分かった。各委員が事務局と一緒に広報活動を行うなど，積極的に協議していかなければならないと感じることから，皆様の協力をお願いします。

それでは，議題について「議題1 平成27年度広報アクションプランについて」，「議

題3 下山プロジェクトによる直接指導について」と大きく関わりがあるため、併せて協議を行う。事務局より説明願います。

●事務局

(資料3) 広報アクションプランについて

運営計画別紙2-1「新しい公共」型施設運営のための広報部会計画において、主たる内容の計画及び目標は示されているが、具体的な内容が示されていないため、この場で平成27年度広報アクションプランについて協議し、今後策定していきたいと考えている。

・今年度の数値目標について

総利用者数10万4千人、うち宿泊利用7万3千人、日帰り利用3万1千人をあげている。数値根拠として、昨年度近隣(自衛隊上富良野駐屯地周辺)で開催されていたスキー大会が今年度開催されないことと、交流の家プールが工事で約2ヶ月間利用できないため、約4千人の利用減が見込まれることから、昨年度の目標値より数値を下げている。

・下山プロジェクトについて

交流の家職員が施設外の現場に赴き、施設理解・施設利用促進を図るために行っている。昨年度同様、今年度も行っていきたいと考えている。

・教育事業について

今年10事業16回約13,000人、リレーションシップ事業は6事業10回の約3,000人の利用が推測される。

上記を現時点(5月26日)の申込数に加算すると、宿泊利用者数70,739人、日帰り利用者数31,329人、合計102,068人となる。目標値から暫定値ではあるが、約2,500人宿泊利用促進事業を実施する必要がある。

・利用促進方策について

道内や町内の高齢者大学や老人クラブの誘致、道内のイベントや札幌市の情報交流展などに施設のブース出展、施設PRを行える場があった場合その都度実施していく。施設PRできる場があれば、教えていただきたい。

○部会長

ただ今、事務局から説明があったが、下山プロジェクトや利用促進誘致活動についてご意見、アドバイス、イベント情報などの提供はあるか。

□委員

昨年度開催されていたスキー大会が、今年度はない。今年は開催しないのか。

●事務局

隔年で開催しているため、今年度に関しては開催しない。

□委員

町内で開催するイベントで交流の家に宿泊してもらおうなどの広報活動を考えてみるのはどうだろうか。

●事務局

イベント参加者の単なる宿泊については、青少年教育施設の性質上利用できないものもある。

委員

アジア圏から旭川空港までの直行便がでているなど、旭川周辺市町村へ観光しやすい環境となっている。今後、アジア圏の客を取り組むことに関して、考えてみるのもいいのではないだろうか。

●事務局

セミナーやワークで大学が連携開催し交流の家に泊まることがある。

委員

町内への利用を促進する働きかけはあるのか。

●事務局

町内の小学生を対象とした教育事業を展開することで働きかけを行っている。

○部会長

いただいた意見を基に、事務局において今年度のアクションプランを修正し、次回の部会において確定する。

続いて、「議題2 新規利用団体の獲得（利用促進月間）」について説明をお願いします。

●事務局

（資料4）大雪青少年交流の家大学について

新規利用団体の獲得のために、4月末に札幌にある北海道老人クラブ連合会に、「職員による一芸プログラム」のチラシを持ち込み、道内の全老人クラブに周知いただけるようお願いした。また、昨年度より道内6管内において老人クラブや高齢者大学の利用促進を行い、いくつかの自治体より利用希望が出ている。

企業、大学の利用促進に関しては、毎年利用していただいている企業の新人研修が、新人が少数だったためにキャンセルとなり、思うような成果が上げられていないが、この後も引き続き利用促進を働きかけていく。また、平成27年度広報部会計画成果目標にあるように、「会議・会合における利用を3件実施」とある。委員の協力も頂きながら利用促進を図っていきたい。

委員

会議・会合における利用を3件実施について、了解。

○部会長

新規利用団体の獲得について説明がありましたが、ご意見はあるか。

委員

交流の家大学で行う講座のニーズはあるのか。

●事務局

道内教育委員会等の関係担当者に相談し行っている。また、高齢者大学の誘致は管内宿泊研修の人数に相当する人数となることから、学校数減少を補っていけるであろうと考えている。

委員

上川管内を対象とした、パークゴルフ大会を開いてみたらどうか？また、日帰りより宿泊と温泉をセットしたイベントを行うと、とても効果的である。

●事務局

検討していきたい。

○部会長

次の議題である、「4 特別企画事業の実施について」の説明をお願いします。

●事務局

(別紙2-1)「新しい公共」型施設運営のための広報部会計画において、平成27年度成果目標「宿泊型1事業、日帰り型1事業」の特別企画事業を施設業務委員と協働で実施するという目標を掲げている。

婚活事業については、以前施設業務委員よりお話があり、7月に交流の家で開催することとなった。また、計画段階ではあるが「スポーツ大会」「ピザ焼き体験会」等の事業を展開していくことを考えている。今年度は、平成26年度に実施したことも念頭に置いているが、施設業務委員の持っているノウハウを活かし、新たな事業を行っていきたい。

○部会長

特別企画事業の実施について説明があったが、ご意見はあるか。

委員

自治体や民間を巻き込みながら、交流の家を中心とした雄大な自然を感じる、特別企画事業として、「婚活事業」等含め、青年層への利用促進向上を今後も高めていけば良いと思う。

○部会長

予定されていた議題は以上。事務局から何かあるか。

●事務局

その他の利用促進として、「概要資料」「リーフレット」の刷新を検討している。また、ホームページの改訂、50周年に向けて、フェイスブックや施設設備、活動風景紹介など行っている。

また、成果目標で挙げている「利用促進広報物の作成に関する研修実施」として、民間報道企業の方を講師に招いて広報に関する研修の実施ができればと考えている。

○部会長

今年度の広報部会計画における「広報活動の方針に関すること」の成果目標に関して、ご意見はあるか。

委員

交流の家において、「利用促進広報物の作成に関する研修実施」とは具体的にはどういったものになるのか。

●事務局

目を引き、読んでもらえるキャッチなチラシや動画の作成についての専門的な知識の習得を図っていくことを考えている。

○事務局

次回広報部会の日程確認 10月を予定。

□委員

了解

会議終了、閉会挨拶、閉会宣言